
Catch the eye 2017年8月

2017/8/2
(水) ブラックボックス化

熱帯夜が二十日以上続いている。日中は外へ出るのがイヤになるほど。今日も暑くなりそう。それでも日の出時間は5時台になった。7日は立秋。そろそろ『少年時代』が聞こえてくる。

大阪も暑い、京都も相当なもの。それでもパイプ椅子が追加されるほどだった『ブラックボックス化する現代社会～科学技術は私たちをどこへ連れて行くのか?～』（京都大学こころの未来センター主催）。

センターは稲盛財団が寄贈した記念館にあり、仕事の関係で2度訪れたことがある。その場所で十数年前に別々に読んだ本の著者「下條信輔」と「広井良典」の二人が会す場面に参加できるとは…。

残念だったのは二人のディスカッションを聴くことなく、大阪へ戻らなければいけなかったこと。でもメインの講演の内容はわが意を得た感じがして、行った甲斐があった。

6月に本が出ていたらしい。『ブラックボックス化する現在～変容する潜在認知』（下條信輔 日本評論社）。目次の第1章は「近視眼化・健忘症化・ブラックボックス化、第3章は「変容する潜在意識とマーケティング、ポピュリズム」など。

それにしても事情をよくわかっている人は同じような思いにあるよう。10年前の2008年の連載の最終回「デジタル化の未来」で「坂村健」も「我々はどこへ行くのだろう」と結んでいた。

社会学者だったか、「世界はごく少数の主と膨大な数のシモベの構図となる」と語っていた。象徴的によく言い当てていると思う。先を見越して、そこから一線を画して生きようとする人も現れているとみる。

そういうことも含めて、わたしもまた、『我々はどこへ行くのか』。

2017/8/6
(日)



2017/8/7
(月)

立秋

台風5号が近づいている。嵐の前の静けさか、太陽が顔を出し、この機会を逃してはと蝉が終盤の大合唱。初鳴きからほぼひと月。夜の虫の声も聞こえ始め、週末から来週にかけてお盆ウィーク。今日は立秋。

日の出は5時台に入り、日の入りは18時台になった。雲の感じも秋がかい間みえる。日中の強烈な陽ざしと、半歩先ゆく朝やけ夕やけの空の季節感の差が、夏の愁いをかもしだす。これも8月の風物詩。

この時期かならず思いだすこと。会社員時代の若い頃、お盆休み中の昼下がりに、2階の部屋で畳に寝そべり、窓と戸を開け放ち、時々空を眺めて、両手を伸ばしてもつ文庫を読む。あれは何の本だったか。

何を読んでいたかは全く憶えていないけど、そういう時間をもったことは心身が記憶している。10歳ぐらいの頃、夏休みの昼下がりに家の小さな庭で一人、夏の空を見て、地のアリの眺めていたこともそう。

『茶の本』（岡倉天心 角川ソフィア文庫）の第一章の冒頭で、「茶道は、雑然とした日々の暮らしの中に身を置きながら、そこに美を見出し、敬い尊ぶ儀礼である」。

茶道でなくても、こういう時間をもつことが人間にとって必要。雑然とした日々の中に埋没しては、気は休まらず、長い目をものごとを見るのも忘れてしまう。

元々そういう時間をもつ方ではある。8月はさらに濃いものにしたい。

2017/8/11
(金)

人、今むかし

“はやく涼しくなってほしい…”。何夜連続かわからないほど熱帯夜の続く大阪。今日もまた厳しい残暑。炎天下を逃れて梅田の地下街にはたくさんの人。飲食店の前には行列ができてるところも。夏休みは来週にかけてが山、8月も残り半分に。

「普通でいいのよ、普通にしていればいいの」。昨夕人生の大先輩からの電話。88歳の今も＜自業＞を続ける方にこう言ってもらうと、祝福またはお祓いを受けた感。そう、成るものはなる。

年のはなれた方の話を聴くのは昔からなんともなかった。追ってわかったのは大人の中でもいい大人に出会っていたということ。先に生きてその人なりの世界観を獲得していて、それをかいま知る話に聞き入った。

ひょっとすると今の人たちよりグローバルだったのではないか、思考も行動も。戦中戦後を生きてきた人たちだからか、人生ストーリーが変化に富んでいて、行動範囲が広い。それだけ思考も超えているということ。

そんな人生が顔に刻まれる、姿かたちに表れる。88歳の大先輩の場合はものを考える人の顔、目の強さ眉間の皺にそれをみる。声にはハリがあり、言葉は次から次へと出てくる。本当に感心するほど。

先日地下鉄のホームで感じたこと、“なんでみんなこんなに冴えない感じになったのだろう…”。老若男女とわず、顔も歩く姿勢も締りがなく、人によっては体形も、以前には見かけなかったような太り方。

普通にシャキッとした感じの人をほとんど見かけない。本当に稀になった。私は普通にシャキッとしていたいと思う。だから背筋をのばして歩き、電車の中では目線を上げて、回りに気をとめるよう心がける昨今。

2017/8/17 同世代間ギャップ
(木) プ

日の出時間が少し遅くなり、微妙な涼しさも感じた今朝。蝉の声も聞いたか聞かなかったか。日中の残暑は厳しいが、もう夏の終わりに近づいている。

終わりがあり、また新しい始まりがあり、何ごととも鳥瞰してみることができれば、平常心を保てますよと、未来の経営者を励ます。仕事で出会う若い起業家たちの目線と動きに、「ああ、こういう人たちが現れてくるんだ…」と安心し、エールを贈る。

「みんなあまり自分で考えていないから」と若い人自身がいうのだから、同世代間でのギャップは、世代間ギャップ以上に問題は大きいと思う。世代間の場合は全く別次元だとして納得しやすい。

ずいぶん前に考えたことだけど、今の若い人たちが社会の第一線で活躍する時には、今の中高年が活躍した社会よりも倍以上の大きなギャップが生まれると想像した。

組織運営が大変になる、「ヒト」が最大のリスクとも言えると考えた。が、今となってはそれもAIがカバーしていくのかもしれない。20代半ばの後継者が社長になる頃、ビジネス環境はさて、どうなっているかしら。

2017/8/22 その後もずっと
(火)

残暑厳しい。関東の人からすると今年に限ってはちょっと羨ましいかもしれない。明日は処暑、この暑さ、とにかく早くおさまってほしい。

「Style—仕事の原点」に書いているように、思いたったことはやり過ぎさない。ふと誰かのことを思い出したとしたら、だいたいは便りを出す。十数年前に山形でやった女性創業塾、その受講者の方を思い出し、久しぶりに葉書を送った。

返信に厚めの封書が届いた。開いてみると、手紙と一緒にチラシ3枚、レジメらしきもの4枚が同封されていた。チラシをよくみると地域の健康教室の開催場所がご本人の自宅。

ああ、その後もずっと何かしらやられているんだ…。前回2年前の手紙にはお雛様公開の写真を送ってもらっていた。いま78歳、人とのつながりのおもしろさをかみしめながら暮らしていますと手紙に書いてあった。

よく考えてみると、受講者は他にもたくさんいたのに、印象に残っているのは、この方だけだ。若い受講者たちに交じって、自己紹介で話されたことが意外だった。

自分の生をいかに全うするか、残りの人生で自分のできることは何か。そういうことを自問自答しての参加であるというような内容だった。話を聞きながら、目を見張ったのだった。

そういうこともあって、のちにふと思い出し、初めて便りを出したのは7、8年前ぐらいだったと思う。野菜を育て、毎日やるべきことをやり、自宅を地域の人たちの団らんの場にして、暮らす。

生き方がうつくしい…、そう感じた。2016年立春レターに書いた『おんたちの春爛漫、後半生に来たる』に大いにうなづいたそう。そう生きてこられていることがすごい。ここにもまた素敵な人生の先輩あり。



2017/8/25 旧くて新しい課題
(金)

今日も東北はすごい雨が降っているところがある。大阪はまったく雨もなく、厳しい残暑が続いている。この8月は東西で天気に大きな差。これが何かの前ぶれでなければいいが。

前ぶれといえば、アメリカに見る社会の分断状況がさらに深刻な事態にならないか、気にかかる。先日の対立現場にいた人をネットで追跡して特定し、仕事を辞めさせたというニュースは、気味が悪い。

いまの時代やっかいなのは、こういうニュースがすぐに世界をめぐり、乗じる人も出てくること。時々スマホのニュースレポートに、“どうなっているんだ、SNSの世界は…”と唖然とする。

10年ほど前にある機関から社員研修の提案を頼まれ倫理をテーマにした内容を出した。これからの新社会人には大事なことだと考えてぶつかたわけだけど、案の上ボツになった。

先月の新聞記事にネットセキュリティーの専門家の話が載っていた。「ネットユーザーの倫理観の再教育が重要だ」。同感。ネットユーザーとは、今となっては社会生活をする人すべてということになる。

ユーザー以上にサービスを提供する側の倫理観の方が問題ではないかと以前から思っている。彼らはよく、「世界を変えたい」と言う。どう変えいんですかと聞きたい。射幸心をあおるゲーム会社などは特に。

自分の好きなことや特技で世に出ることができるといえる時代。自分の考えや行動を簡単に発信でき、たくさんの人を動かすこともできる。それだけに節度も必要。

倫理、節度。言わんとするかはわかるけど、実際にどうふるまえばいいか、簡単には身につかない。最近、勉強や独習、読書のすすめに関する出版が目につく。社会の課題が根本的なことになってきたよう。

2017/8/29 大切に思う大切
(火) さ

日中の暑さはまだ厳しい。でも蝉の声はやんだ。秋の虫が軽やかに鳴きだした。これまで愛用した麻のストールも合わなくなってきた。鮮やかなブルーの服はもう着ない。晩夏から初秋へ、8月も残り二日。

科学技術が発展し、わかってきたことがたくさんある。昔からの言い伝え、例えば『病は気から』が正しいことも解明された。一方で、気象や地震予知のように、そう簡単にわかるものでないこともわかってきた。

人の出会いにも、もっと何かあるのではないかとあらためて感じたのが26日。10年間続いている月例のミーティングに飛び入り参加した午前中。10年前のセミナーを受講した4人が、たまたま帰りが一緒になり親しくなって、セミナーが終わっても勉強を続けようと毎月集まっている。

4人と話ながら思う。受講者は他にもたくさんいたのに、この4人がつながり、今も関係が続いているのは何故か。価値観や社会観、人生観の核心のところでは何かしら共通するものがあるからだろうか、そういうものを見てとるだけでない何かがあるのではないか。

この日は夜に別の集いがあった。2年前の創業塾の受講者、事務方、そして講師が、今は仲間として関係が続き、交流する。この日もまた感じた、本当にいい人たちがよくぞこうして集まったものだと。俗にいう「目にみえない力で」が、たしかにあるような。

あったとしてもそう簡単にはわからないから、「ご縁を大切に」というカタチでその力がうまく働くように先人は教えているのかもしれない。人が出会いその後の関係へと自然に進めば、そこから何かまた別な世界が生まれる。縁を大切することは自分の人生を豊かにすること。

何かを大切に思う気持ち。その大切さをまた感じた26日の一日。

番外 サプライズ！
2017/8/26
(土)

26日は3つの予定がありました。午前は10年続く月例ミーティングへの飛び入り参加、午後はクレオ東館の月一回の起業相談、そして夜に a la mainでの | g | の同窓夏サロン。この日の締めくくりの予定でサプライズあり。

みなさんとはひと足遅れて a la main に到着。この会のボスと仲間たちが外のデッキで肉を焼く姿を見かけ、「遅くなりました」と声をかけながら玄関から中へ入ると、誰もが、「ああ〜」とバタバタ。うん？と思いながら、持参した靴下を履いていたら、皆の様子がおかしい。足もとに身をかがめながら、「ひょっとして、わたしを待っているんですか？」と体をおこして部屋の中に入ると、半円に並んだ皆さんから、「2日後のお誕生日、おめでとうございます！」とクラッカーで迎えられたのでした。

”！！！” 。まさか誕生日を気にとめてもらっていたとは…。こんな風にサプライズなお祝いをしてもらったのは初めて。する側のタイプだからだけ、奉仕精神にあふれたメンバーのおかげで感じる事ができた仕合せ。ふつふつとしたこの幸福感がいずれ、未来の素敵な思い出になるはずです。



